

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野南小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	全体的に、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができている。一方で、国語における漢字の活用や、算数における数の構成や四則計算、社会における地図の読み方など、学習の基礎的な部分に課題が見られる。そのため、今後は、知識・技能を獲得するだけでなく、活用することを通して、その定着を図り、その理解を深めていく。そこで、より主体的な学びが行えるような学習を展開していく。	
思考・判断・表現	国語において、自分の考えを整理し、目的や意味に応じて、考えや文章の内容を工夫して表現することに課題が見られた。一方で、児童の振り返り結果を見ると、工夫して発表することに関する肯定的回答は高いことが伺える。そこで、児童が自身の考えを表現する場面において、改めて考えを整理したり、目的や相手に応じて表現したりする方法について身に付けていけるように授業を展開していく。 算数では、基礎的な計算のみならず、立式の過程や意味など、表現の仕方などにも目を向ける学習を引き続き展開していきたい。また、資料の読み取りについて、教科横断的に力を高めていく。	

今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <学習上の課題> <ul style="list-style-type: none"> 獲得した知識・技能の活用に関与が見られる。 国語において、主語や述語の読み取りに課題が見られる。 <指導上の課題> <ul style="list-style-type: none"> 児童自身が学習に対し、主体的に取り組むことができるように、より探究的に課題を解決し、獲得した知識・技能を活用していけるような学習を展開していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が学習に主体的に取り組むことができるようにするため、魅力ある学習課題を設定する。【毎時間】 既有知識や経験と獲得した知識・技能を関連付けながら理解を伴った学習を展開する。【毎時間】 授業の最後に、目的や内容を焦点化し、学習の振り返りを行う。【毎時間】 児童が文章を読み取る場面では、主語と述語の関係を意識して読み取れるようにするとともに、書く活動の際にも、主語を児童に意識させていく。【通年】
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <学習上の課題> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを友達に伝えたり、友達との協働学習を通して、学びを深め合ったりすることに課題が見られる。 <算数において、立式した場面を想起することに課題が見られた。> <指導上の課題> <ul style="list-style-type: none"> 児童がより、協働的な学びに取り組めるよう、授業の工夫改善を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 協働的な学習において、ICTを効果的に活用し、児童が自分の考えを表現したいと思えるよう、授業の工夫改善を図る。それにより、学びを深めていけるようにする。【通年】 算数において、計算ができるようにするだけでなく、立式の場面では、問題場面を想起し、式の意味を考えることができる学習活動を行う。【通年】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	A	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある学習課題を設定し、児童が主体的に学習に取り組むための授業を展開することができた。 既有知識や経験と獲得した知識・技能を関連付けながら理解を伴った学習を展開することができた。 授業の最後に、目的や内容を焦点化した振り返りを実施した。それにより児童が学びを振り返りながら、学習を進めることができている。 児童が文章を読み取る場面では、主語と述語の関係を意識して読み取れるようにするとともに、書く活動の際にも、主語を児童に意識させることができた。主語と述語を意識する実践の展開も見られ、今後もよりよい指導を検討していく。
思考・判断・表現	A	<ul style="list-style-type: none"> ミラシードやTeamsを活用しながら、協働的な学習において、ICTの効果的な活用を概ね実施することができた。今後も、児童が自分の考えを表現したいと思えるよう、授業の工夫改善を図る。それにより、学びを深めていけるようにする。 算数においては、今後も、基礎的な計算技能の定着を図りながら、問題場面を想起し、立式し、その式の意味を考えることができる学習活動を継続して行っていく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語、算数、理科の3教科すべてにおいて、良好な結果が見られた。国語の漢字の活用について課題が見られた。無回答率は高くないものの、学年別漢字配当表に示されている漢字について、学習後に活用を繰り返していき、定着を図る必要があると考える。算数の図形の性質についての理解について、課題が見られた。図形の性質や意味について正確に理解を必要とする。理科の身の回りの金属について、電気を通すか、磁石に引き付けられるかの問題について、課題が見られた。金属は全て、電気を通すということ、鉄のみが磁石に引き付けられるという内容が混同してしまっているため、学習時に整理しながら、それぞれの性質について抑える必要がある。	
思考・判断・表現	国語、算数、理科の3教科すべてにおいて、良好な結果が見られた。国語で、目的に応じて、文章と資料を結び付け必要な情報を見つたり、複数の資料と資料を結びつけ、必要な内容を適切に読み取ることに課題が見られた。学習における資料の活用時に、内容の理解だけにとまらず、複数の資料を複合的に読み取る学習の経験も必要であると考えられる。算数でも、複数のグラフから、適切なグラフを選択し、読み取ることに課題が見られた。読み取る力だけでなく、必要とする資料が何か適切に選択する力を高めていくことが必要である。理科では、結果の差異点や共通点から新たな問題を発見し、表現する問題に課題が見られた。課題を自身で見出し、解決していく経験を増やしていくことが求められるといえる。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	どの学年においても、市平均を上回る、もしくは同等の結果となっている。国語において、昨年度見られた課題の「主語と述語の関係の理解」については、4学年すべてにおいて市平均を上回り、改善が見られた。今後も引き続き、日頃から、文章を読みながら、主語と述語の関係を意識して、読むことができるように指導を重ねていく。算数において、4、5年生では、除法や混合計算、また5年生において小数の減法に課題が見られた。基礎的な計算の力を確実に伸ばし、日頃より活用を重ねることによって定着を図っていく。社会において、地図や複数の資料の読み取りなど、資料の活用について課題が見られた。単なる知識の習得で済ませるのではなく、資料の読み取りや活用を通して、理解を深めていく。理科において、電気の回路や磁石についての理解に課題が見られた。1人1回の確実な体験を保障した実験を通し、正しい知識を獲得できるようにしていく。	
思考・判断・表現	どの学年においても、市平均を上回る、もしくは同等の結果となっている。一方で、国語において、自分の考えを明確にして書き方を工夫したり、相手や目的に応じて、文章を整えたり、自分の考えをまとめたりすることに課題が見られた。系統立てて、文章の書き方や考えの表し方について押さえたいことが必要である。算数においては、4、5年生において、二次表や複合グラフの読み取りに課題が見られた。生活に結びつくデータの読み取りだけでなく、読み取ったことを根拠とともに説明する経験を増やし、活用の力を高めていく。また、示された場面から立式することに対する課題が、昨年度に引き続き見られた。今後も、線分図や与えられた式を読み取る活動を通して、問題の状況を整理し、式の意味を考えることができる学習活動を増やしていきたい。社会において、共通していることや変化について読み取ったり、輸送手段とその特徴について考察することに課題が見られた。資料を読み取って、全体の傾向を捉えたり、変化の理由を考えたり、そこから課題を見出す力に課題が見られた。資料の見方・考え方の基礎を押さえ、資料の読み取りから得られたことを、結び付けて考える活動を通して、理解を深めていく。	

③	評価(※)	中間期報告 学力向上策の実施状況	中間期見直し 学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童が学習に主体的に取り組むことができるようにするため、魅力ある学習課題を設定すること、既有知識や経験と獲得した知識・技能を関連付けながら理解を伴った学習を展開することについては概ね実施できている。 授業の最後に、目的や内容を焦点化し、学習の振り返りを行うことについては、概ね実施できている。 児童が学びの中で主語と述語を意識した活動の実施については、概ね実施できているものの、他と比べ、取組状況に差がある。今後は、効果的な指導を検討することで、より効果的な実施を図っていく。 	変更なし
思考・判断・表現	A	<ul style="list-style-type: none"> 協働的な学習において、ICTを効果的に活用し、児童が自分の考えを表現したいと思えるよう、授業の工夫改善を図っている。それにより、学びを深めていけるようにすることについては、概ね実施できているものの、児童のICTの活用能力に差があるため、効果的な活用方法について、今後も引き続き工夫改善を図り、よりよい活用について、検討を重ねていく。 算数において、計算ができるようにすることのみならず、立式の場面では、問題場面を想起し、式の意味を考えることができる学習活動については、実施できている。 	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)